みやぎの「産業復興」の現状と課題

資料2

短期的課題

（1）事業者の販路回復・開拓

地域間で現状に大きな相違

内陸部

④企業集積による製造業の裾野拡大
自動車関連産業を中心に企業の集積が進むことで，製造業の裾野が拡大

輸送用機械出荷額(H22)1,775億円→(H24)3,252億円

沿岸部

②着実に進む農業生産基盤の復旧
大規模化を推進し，新たな成長産業へ
県内総生産（名目）農林水産業
（H22)117,287百万円 →（H24）107,668百万円

③人材不足・人口流出
基幹産業（水産加工業等）のマンパワー不足
内陸部等への人口流出が顕著に
沿岸部定住人口：（H22）63.5万人→（H25）59.8万人

①遅れる商工・水産業の復旧
地盤嵩上げ等の遅れにより復旧途上の段階
事業停止や風評被害による販路喪失

水産加工品出荷額
(H22)2,582億円→(H24)1,400億円

全県

⑤雇用のミスマッチ
「建設・土木」等の求人が多い一方、「事務職」は低水準で推移
被災離職者・若年求職者にとっては厳しい環境が続く
県内有効求人倍率：建設系4.31・保安系8.75・事務系0.33※H27.1

⑥観光客の減少
風評被害等により国内外からの観光客入込数は回復途上
観光客入込数：県内全域：（H22）6,129万人→（H25）5,569万人
石巻・気仙沼圏域：（H22） 805万人→（H25） 469万人
外国人延べ宿泊者数：（H22）15.9万人→（H25）7.8万人

中長期的課題

（2）地元産業の競争力強化・人材確保

中長期的課題

（3）交流人口の拡大

⑦国際化の進展
・新興国の台頭により厳しい国際競争の時代へ
・アジアの中間層・富裕層人口が増加の見込み
・TPP等経済連携の推進

〈GDP成長率推移（2010-18）〉
日本：1.0%、中国：16.5%
ｲﾝﾄﾞ・NIEs・ASEAN5：8.0%

〈アジアの中間・富裕層〉
2010：19億人、2020：29億人

⑧人口減少と少子高齢化
・本格的人口減少時代へ
・需要縮小による地域経済の落ち込みが懸念
日本…▲16.2%（2010-40）
『日本の地域別将来推計人口』より

経済・社会構造の変化